

昭和							年	略	
19	19	19	19	19	19	19	月	略	
11	10	6	5	2	2	2	日	略	
1	22		20	21	15	4		略	
南部「セレベス」を三船司第三支部に引継ぎ「ビマ」に撤収。 「マカツサル」「ラハ」間に於いて敵潜水艦に撃沈せらる。 機帆船明神丸「セレベス」より「ムナ」島「ラハ」經由「ビマ」向け航行中 生ず。 敵機、敵潜の妨害を受け各所に戦闘を惹起し停戦に至る迄二〇数隻の沈没船を生ず。 と連繋「サベ」海峡及び「ロンボック」海峡に於ける船舶輸送作戦に従事す。 臨時編成に依り第三船舶輸送司令部第二支部と改称「ビマ」に於いて隣接部隊 支部主力「スンバワ」島「ビマ」に上陸。 「アンボイナ」島「アンボン」港出発。 司令部「ビマ」支部編成完結。 軍令陸甲第四二号に依り「アンボイナ」島「マンボン」に於て第五船舶輸送司令部								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	
								略	

	21	20	20	20		20	20	20
	5	12	9	5		5	2	1
	29	1	2			20	5	28
攻潜艇隼丸「ロンボック」通峽護衛任務を終了し泊地「ロンボック」島「タン ジョン」に向け航行中「シラー」岬附近に於て敵艦の襲撃を受く。 第四六師団転進の為の輸送作戦に参加す。 第三船舶輸送司令部第一支部転進に伴い「チモール」「フロレス」島の各島を 含む海域を管掌区域に拡張す。 同年八月一四日第四八師団転進の為の輸送作戦に参加す。 「ビマ」に於て終戦。爾後集結の為の海上輸送に任ず。 「スンバワ」島「ビマ」「パタシ」間の兵力輸送に任ず。 名古屋上陸、復員。								
部隊長 少佐 高松友清								

0593

昭和											年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19			
8	7	7	6	5	11	10	9	8	7	5			
10	30	5	21	30	1	1	5	24	3	20			
軍令陸甲第四二号に依り「マニラ」に於て編成完結。 「セレベス」島「ビートン」に支部開設。 「セレベス」島「メナド」に転進。 第二方面軍の指揮下に入る。 「セレベス」島「バレバレ」に転進。 「セレベス」島「マカッサル」に移駐。 支部長第一四揚陸隊長兼補。 第二方面軍の指揮下を脱し第二軍の指揮下に入る。 第三野戦船舶廠第五支廠現地復帰し支部に充用せらる。 勢第六大隊編成戦訓練実施。 第四揚陸隊現地復帰その主力支部に充用せらる。													

0594

		21	21	20	20
		6	6	11	9
		23	9	26	2
「セレベス」島「ピートン」に於て終戦。 「チャンバ」「パンカイ」移駐の後「マリンブン」に集結。船舶輸送並現地自 活。 「セレベス」島「バレバレ」港出発。 田辺港上陸復員。 部隊長 少佐 小川 武利					

0595

昭										年 月 日	第四船舶輸送司令部 (晩第二九五〇部隊)	略 歴	略 歴	摘 要
19	18	18	18	18	18	18	18	18	17					
12	12	11	6	6	5	5	4	4	12					
18	17	1	13	12	18	14	24	17	20					
軍令陸甲第一〇〇号に依り広島に於て編成完結。 南海派遣のため宇品出発。 「バラオ」諸島着。 「バラオ」出発。 ニューギニア島「ホーランヂヤ」着。 第二期「ニューギニア」船舶作戦に参加。 「ホーランヂヤ」出発。 「ウエワク」着。 第三期「ニューギニア」船舶作戦参加。 「ウエワク」出発。 「ホーランヂヤ」着。														

0596

	20	19	10	19
	9	7	4	1
	2	15		17
部隊長 中将 坂本末雄	「ホーランドヤ」出発。 「アイタベ」着 軍令陸甲第六七号に依り現地復帰し第八方面軍に編入せらる。 「ラバウル」に於て終戦。			

0597

第五船舶輸送司令部						略歴
(暁第六一六〇部隊)						
昭和	18	18	19	19	20	年月日
12	12	4	4	4	9	
1	24	1	12	30	2	
軍令陸甲第一一二号により比島「マニラ」に於て編成完結し（第一次）「ダバオ」に転進す。 大陸命第九一〇号により船舶司令官の隷下に入り第五船舶輸送隊を編成し（司令官少将沢田安富）「ダバオ」に位置し第二方面軍関係の船舶作戦に参加す。 南方総軍及び第三船舶輸送司令部の「マニラ」転進に伴い「ダバオ」に於て復帰し要員は第三船舶輸送司令部に編入せらる。 軍令陸甲第四二二号により編成改正下令。 北海道小樽において編成完結。 大陸命第九九一号により第五船舶輸送隊を編成し（司令官少将鈴木敬司）小樽に位置し北方方面の船舶作戦に参加す。 小樽に於て終戦。						
						摘要

0598

	部 隊 長	
	初 代	
	少 將	
	沢 田	
	安 富	
	二 代	
	少 將	
	鈴 木	
	敬 司	

0599

						昭 19	年 月 日	第五船舶輸送司令部大泊支部 (暁第六一六〇部隊)	略 歴	摘 要
20	20	20	20	20	20	5				
10	8	8	6	4	4	10				
15	25	15	4	10	10					
部長 少佐 石井 清						軍令陸甲第四三号に依り第一船舶輸送司令部大泊支部の人員を基幹として第五船舶輸送司令部大泊支部編成完結。 同日より第五船舶輸送司令官の隷下に入り船舶輸送業務を開始す。 真岡、恵須取出張所開設。 本斗出張所開設。 大泊に於て停戦。 邦人引揚最終船にて古城少尉以下六五名小樽に引揚ぐ。 残余は「ソ」軍進駐に伴い大泊小学校に収容せらる。 将校大隊其の他を編成し入「ソ」す。				

0600

昭和							年 月 日	第七船舶輸送司令部 (暁第四五〇〇部隊)	略 歴	摘 要
20	20	20	20	20	20	20				
9	6	2	1	1	1	1				
2	17	11	27	26	13	4				
特設第七船舶輸送司令部広島に於て編成完結。 門司港出発。 基隆上陸。 基隆出発台北着。 軍令陸甲第一五号に依り特設第七船舶輸送司令部を基幹として台北に於て編成 完結し大陸命第一二三三号に依り船舶司令官の隷下に入らしめられ台北に位置 し台湾及び沖縄にある船舶部隊を指揮し船舶作戦に参加す。 大陸命第一二九五号により第一〇方面軍に編入せらる。 台北に於て終戦。										

0601

昭和							年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	20	17	16	15	12			
9	6	2	8	10	6	7			
2	17	11	31			27			
第二二碇泊場司令部はその支部を高雄に配置し臨命第六九号により第一船舶輸送司令官の隷下に入る。 第二二碇泊場司令部の復員に伴い支部の人員を基幹として船舶輸送司令部高雄支部を編成せらる（支部長中尉浅野紀三郎） 高雄は大東亜戦争における船舶輸送の前進基地となり支部は之の輸送業務に従事す。 軍令陸甲第五二号により支部は第一船舶輸送司令部高雄支部に改編せらる（支部長 大佐 加藤忠義） 軍令陸甲第一五号により支部は第七船舶輸送司令部高雄支部に改編せらる。 大陸命第一二九五号により支部は第一〇方面軍に編入せらる。 高雄に於て終戦。									

第七船舶輸送司令部高雄支部

(暁第四五〇〇部隊)

略歴

0602

昭						年	第七船舶輸送司令部基隆支部 (既第四五(〇)部隊)	略 歴	摘 要
20	20	19	17	15	12	月			
6	2	11	8	6	7	日			
17	11	20	31		27		陸軍運輸部基隆出張所は日華事変前より基隆に在り。 出張所の人員を基幹として台湾軍に於て第二二碇泊場司令部を動員編成せられ、 臨命第六九号により第一船舶輸送司令官の隷下に入る。 司令部は基隆に位置し支部を高雄に配置す。 第二二碇泊場司令部は復員し司令部の在基隆の人員を基幹として船舶輸送司令部基隆支部を編成せられ基隆に位置して船舶輸送業務に従事す。 昭和一七年軍令陸甲第五二号により支部は第一船舶輸送司令部高雄支部基隆出張所に改編せらる。 出張所は第一船舶輸送司令部基隆支部に改編せらる。 軍令陸甲第一五号に依り支部は第七船舶輸送司令部基隆支部に改編せらる。 大陸命第一二九五号により第一〇方面軍に編入せらる。		

0604

	20
	9
	2
基隆に於て終戦。 部隊長	

0605

昭										年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	20	20	20	20	19	19	19	19			
5	5	4	3	3	2	4	4	4	3			
31	14	29	25	23	12	10	9	3				
軍令陸甲第四二号により広島に於て第一船舶輸送司令部沖繩支部編成完結。 鹿兒島港出発。 那覇上陸。 那覇にて揚陸作業に従事す。 軍令陸甲第一五号により、那覇に於て改編し第七船舶輸送司令部沖繩支部編成 完結。 沖繩大空襲。 状況悪化に依り長堂に移駐、特設第六連隊を編成。 本部を那覇具城岳に移動。第一線を安里五一、七高地に転進せしむ。 五一、七高地の第一線部隊全滅。 本部全滅												

0606

	20	20	20	20	20	20
	9	9	6	6	6	6
	2	2	15	12	4	1
生存者は島尻郡八重瀬岳に転進。 生存者を以て再び部隊を編成。 米軍の再度の猛攻にあう。 八重瀬岳陣地に於て一〇名を除き玉砕。 沖縄に於て終戦。 終戦に伴い戦斗行動を停止し、爾後生存者は所在の地点に於て武装解除されたる後米軍収容所に入る。 部隊長 中佐 平賀文男						

0607

第一船舶輸送地区隊司令部 (暁第二九四五部隊)			略歴	摘要
年	月	日		
昭	17		軍令陸甲第五二号により西貢に於て編成完結。 大陸命第六五九号により第三船舶輸送隊に編入せしめらる。爾後西貢方面の船舶輸送に従事す。 西貢出発。西部「ニューギニヤ」「アンボン」に転進す。 主として西部「ニューギニヤ」方面防備増強のための船舶輸送に従事す。 軍令陸甲第四二号により現地復帰し広東に到り第一二船舶団司令部に編入せしめらる。	
	5	19		
	8	18		
	31	5		
部隊長 少将 渡辺 信吉 大佐 中井 千万騎				

0608

		年	月	日	略	歴	摘要
	昭 17						
	5		8				
	5		31				
軍令陸甲第五二号に依り「マニラ」において編成完結。 大陸命第六五九号（昭一七、七、一四）により船舶司令官隷下に入り「マニラ」に位置して比島方面の船舶輸送に従事す。 昭和一九年軍令陸甲第四二号により「マニラ」において復歸し第一三船舶団司令部に編入せしめらる。 部長 少将 鈴木敬司							

0609

昭和											年
17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	18	月
8	9	2	3	4	4	6	7	9	9	11	日
31	中旬	上旬	下旬	上旬	中旬	中旬	下旬	23	25	24	
第一船舶団司令部 略歴 (暁第二九四三部隊) 軍令陸甲第五二号に依り山口県柳井西部第八部隊に於て編成完結。 宇品出発。「ガダルカナル」島に向う。 「ガダルカナル」島作戦参加。「ガダルカナル」島出発。 「ブーゲンビル」島に集結。 「ブーゲンビル」島出発。 比島「セブ」島着。 「セブ」島出発。 「ニューギニア」島「フィンシュハーヘン」到着。 「ラエ」「サラモア」に對する海上輸送及び警備に従事。 「ニューギニア」島「サツテンベルグ」高地に在りて「アント」岬「サツテンベルグ」高地附近の戦斗に参加。											略
											歴
											摘要

0610

			至 自		至 自 至 自				至 自 至 自				至 自	
21	20	20	20	20 19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18
1	9	9	7	7 9	8	6	6	5	4	2	1	1	1	11
17	下旬	2	11	10 8	10	17	16	1	26	12	23	17	9	18
「ムシュ」島出発。			「セビツク」河畔出発。同年一〇月中旬「ムシュ」島集結。 「ニューギニア」に於て終戦。 エンベルグ」附近に在りて警備。 歩兵第一〇二連隊に転属（但し団長は第一八軍司令部付）その後終戦迄「マリ 「カヂミン」に在りて「セビツク」河輸送業務及び自活に従事。 事。 「ソナム」に在りて「ウエワク」「ブーツ」「マルデツブ」間の海上輸送に従 事。 「ボーキン」に在りて「ハンサ」「ウエワク」「ブーツ」間の海上輸送に従事。 「ハンサ」に在りて「マダン」と「ハンサ」と「ウエワク」間の海上輸送に従 「ガリ」附近に在りて潜水艦揚搭作業に従事。 作戦中の第二〇師団に対する海上輸送に従事。											

0611

		昭
	21	21
	2	1
	6	31
復員		浦賀上陸。
部隊長		
少將		
山田榮三		

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

					昭	年 月 日	第三船舶団司令部 (暁第六一八三部隊)	略 歴	摘 要
	20	19	18	17	17				
	8	4	5	12	12				
	15	20	20		25				
部隊長 初代 少将 渡辺 信吉 二代 少将 鈴木 敬司					軍令陸甲第一〇〇号により広島において編成完結。 同日大陸命第七一九号により船舶司令官の隷下に入る。 北海道小樽に位置し「アリュンシャン」方面の作戦輸送及び作戦準備を担当す。 大陸命第七八五号により北方船舶隊の編成に入る。 第五船舶輸送司令部の北海道移駐に伴い第五船舶隊の編成に入る。 北海道において終戦。				

0614

昭和			年 月 日	略 歴	摘 要
19	18	18			
7	3	3			
15	5				
昭 19.6.24 軍令陸甲第一四号により広島に於て編成完結。 大陸命第七五四号により船舶兵団長の隷下に入る。 宇品出発「ラバウル」に到り、爾後「ニューブリテン」島方面に行動し「ダン ビール」海峡方面の船舶作戦に参加す。 軍令陸甲第六七号により現地復帰し、独立混成第六五旅団司令部に転属せしめ られ第八方面軍司令官の隷下に入る。					
部隊長 中将 松田 巖					

0615

第一一船舶団司令部 (暁第二九五二部隊)								昭 和 ¹⁸	年 月 日	略 歴	摘 要
								18	9		
								10	10	20	軍令陸甲第八九号により編成下令。
								11	11	3	昭南において編成完結。
								19	11	3	第三船舶輸送司令官の隷下に入り昭南に位置す。
								19	11	3	第三船舶輸送司令官の隷下を脱し第一船舶輸送司令官の隷下に入る。
								19	11	3	昭南港出発沖繩に到り輸送業務に従事す。
								20	2	11	第七船舶輸送司令官の隷下に入る。
								20	4	1	米軍沖繩上陸と共に陸上戦斗に参加す。
								20	4	10	第十方面軍の隷下に入る。
								20	9	2	沖繩において終戦。
								20	9	2	終戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点に於て武装解除せられたる後米軍収容所に入る。

0616

	至 自
	21 21
	12 6
	25 4
内地復員	部隊長
少将	鈴木 義三郎
大佐	大町 茂

0617

第一二船舶団司令部					略歴	
(暁第二九四五部隊)					略歴	
年 月 日					略 歴	
昭 19	20	20	20	20	軍令陸甲第四二号により「アンボン」に於て第一船舶輸送地区隊司令部の人員を充当して編成完結。	
5	8	6	2	2	大陸命第九九一号により第三船舶輸送隊に編入せらる。	
5	15	1		15	大陸命第一二五〇号（昭二〇、二、九）により第三船舶輸送隊編成より除き第二船舶輸送隊に編入せらる。	
					広東に転進し同方面の船舶作戦に参加す。	
					第二三軍司令官の隷下に入る。	
					広東に於て終戦。	
					部隊長	
					大佐 此木友之	
					摘要	

0618

第一三船舶団司令部 (暁第二九四二部隊)							年月日
20	19	19	19	19	19	昭	19
3	11	7	7	6	5		5
10	下旬	25	13	20	27		5
軍令陸甲第四二号に依り主力は第二船舶輸送地区隊司令部の人員を以て比島「マニラ」に於て、一部は船舶工兵第七、第一三連隊及び第五揚陸隊差出しの人員を以て「ニューギニヤ」「マノクワリ」に於て編成完結。 「マノクワリ」部隊は「マノクワリ」方面の船舶輸送業務に従事す。 部隊主力「マニラ」出発。 部隊主力西部「ニューギニヤ」「ソロン」着。同日より「ソロン」地区の防衛に任ず。 「マノクワリ」部隊は「イドレ」に転進のため出発。 「イドレ」着。九月七日迄「ベラ」湾に於ける船舶補給作戦に参加す。 地上戦斗に参加す。 部隊現地に於て復帰す。							略
							歴
							摘要

0619

	20	20
	2	2
	15	1
「内地に於て再編成せられたる第一三船舶団司令部の行動」 編成下令。 東京芝浦第一船舶輸送司令部東京支部に於て編成完結。 爾後左記部隊を指揮し八戸以南御前崎以東の海域の船舶輸送作戦に参加す。 「隷下部隊」 船舶工兵第二二連隊 船舶工兵第三九連隊 船舶通信第二大隊第一中隊（後に第七大隊に編成替、二〇、四、一九） 特設水上勤務第一三一中隊 第五九碇泊場司令部（父島） 潜水輸送第二派遣隊。 第一二野戦船舶廠 船舶司令部東京支部 独立海上輸送第一中隊		

0620

				20	20	20	20
				10	9	9	4
				31	25	2	頃
				復員。	東京に移駐す。	横浜に於て終戦。	空襲被災により横浜に移駐す。
			部隊長				陸上勤務第二〇〇中隊（四、五月頃編入）
		初代	少将	北村	可夫		
	二代	少将	権藤	怒			
三代	大佐	松長	梅一				

昭和					年月日		略	歴	摘要
20	19	18	18	17	17	17			
8	4	7	3	12	12	11			
15	18		14	25	19	16			
停戦。	松輪島に支部開設。	「キスカ」支部撤収柏原帰着、幌内島、武蔵に支部開設。	「キスカ」支部開設。	船舶輸送業務を開始す。	司令部は柏原に位置し「アツツ」「温称古丹」の各島に夫々支部を設置し北方	広島に於て編成完結。	小樽に移駐。	小樽出発。	北千島、柏原着。
									軍令陸甲第一八号に依り編成下令。

第三〇 碇泊場司令部

(暁第四八二六部隊)

略歴

0622

	20
	8
	24
現地に於て夫々「ソ」軍に武装解除されたる後入「ソ」す。 「アツツ」支部玉砕す。 部隊長 中佐 夏目 迪	

0623

• • •

	昭
20	19
9	4
2	25
「ニューギニア」島「サルミ」に於て全滅状態となる。 「ニューギニア」島に於て終戦。 停戦に伴い戦行動停止爾後生存者（部隊）は所在の地点で武装解除された後米軍収容所に入る。 部隊長 中佐 安 広 年 雄	

0625

昭						年 月 日	略 歴	摘 要
19	18	18	18	18	17			
7	9	8	8	8	10			
15	10	26	20	8	22			
中佐 長野 金兵衛 部隊長 軍令陸甲第九七号により現地復帰し第八方面軍の隷下に入り混成第一旅団に編入せらる。 「ニューブリテン」島「ラバウル」上陸爾後同地に於て船舶輸送業務に従事す。 佐伯港出発。 宇品港出発。 東京留守近衛第二師団に於て編成完結第四船舶輸送司令官の隷下に入る。 軍令陸甲第一八号に依り編成下令。								

第三二碇泊場司令部

(暁第三〇二四部隊)

略歴

0626

昭和										年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	20	18	18	17	17	16	16	16			
9	9	4	12	11	3	2	9	9	9			
17	2	1			15	21	20	18				
（約半数）は「サルウイン」河渡河輸送に従事す。 英軍の命により労役のため「ムドン」に集結。同地に於て労務に服す。一部（ 「モールメン」に於て終戦。 緬甸「モールメン」に転進し引続き船舶作戦続行。 敵空襲の激化により小型船による船舶輸送に従事す。 第三船舶輸送司令部に隷属し大型船による船舶輸送に従事す。 事す。 緬甸「ラングーン」に到着。主力は同地に位置し緬甸作戦に伴う船舶輸送に従 宇品港出発。 宇品に於て船舶輸送に従事す。 姫路に於て編成完結。												

第三八碓泊場司令部

（暁第六九一〇部隊）

略歴

0627

				昭
		21	21	20
		7	7	12
		21	20	24
部隊長	初代	大佐	根本	主力は「タワシラ」(「タンヒユザマ」地区)に於て橋梁及び鉄路工事に従事す。
二代	大尉	土肥	新七	内地帰還のため緬甸「モールメン」出発。
				大竹港上陸。
				復員。

0628

昭和						年 月 日	略 歴	摘 要
18	18	17	17	17	16			
6	4	9	3	1	7			
10			1	1	15	13		
軍令陸甲第四二号に依り編成下令。 広島に於て編成完結。 宇品に於て船舶輸送業務に従事す。 宇品港出発第一六軍司令官の隷下に入る。 「ジャワ」島に上陸。爾後「バタビヤ」に碇泊場を開設し船舶輸送業務に従事す。 第四五碇泊場司令部の「ラバウル」方面の転進に伴い「スラバヤ」に支部を開設す。 「ニューギニヤ」「小スンダ」方面強化輸送の為本部を「スラバヤ」に支部を「バタビヤ」に設置す。 軍令陸甲第三四号に依り現地復帰し第三船舶輸送司令部「ジャワ」支部に改編								

第四〇 碇泊場司令部

(併第七一二二部隊)

略歴

0629

せらる。 部隊長 中佐 松野菊仙

0630

昭					年 月 日	第四十一倭泊場司令部 (暁第七一二三部隊)
18	16	16	16	16		
6	9	9	7	7		
10			15	13	略 歴	摘要
軍令陸甲第四二号に依り編成下令。 広島に於て編成完結教育訓練に従事す。 宇品港出発。 仏印西貢着、爾後同地に在りて船舶輸送業務に従事す。 軍令陸甲第三四号に依り現地復帰し、第三船舶輸送司令部仏印支部に編入せらる。 部隊長 中佐 桑原 支那吉						

0631

昭和							年月日	略歴	摘要
18	17	17	16	16	16	16			
3	5	4	12	11	9	9			
	上旬	上旬	8	上旬	18	10			
軍令陸甲第七号に依り編成下令。 熊本騎兵連隊に於て編成完結。爾後名古屋に移動。 主力は奄美大島に一部「パラオ」に移動待機 開戦に伴い主力は比島「ルソン」島「ラモン」湾にその一部は「レガスピ」 に上陸。「パラオ」待機部隊は「ミンダナオ」島「ダバオ」に上陸。 主力は「リンガエン」に集結し川口支隊の比島「ビサヤ」地区の 定作戦に協力し、 「セブ」「バナイ」「ネグロス」「ミンダナオ」北部各島の上陸作戦に参加す。 全力「ミンダナオ」島「ダバオ」に終結。爾後本部を「ダバオ」に設置「カガ ヤン」「ザンボアンガ」「セブ市」「イロイロ」に支部を設置す。 司令部を「セブ市」に移転し支部、出張所を「ダバオ」「カガヤン」「イロイ ロ」「タタロバン」「フアブリカ」「ザンボアンガ」に設置す。									

第四四 倭泊場司令部 略歴

(暁第七〇四〇部隊)

0632

	18	18
	6	6
	10	10
軍令陸甲第三四号に依り第四四碇泊場司令部現地復帰し第四船舶輸送司令部 「セブ」支部に改編。 第三船舶輸送司令部「セブ」支部に改編。 部隊長 初代 大佐 坂本末雄 二代 中佐 山田深吾		

0633

昭						年 月 日	略 歴	摘 要
至 自								
19	19	17	17	17	16	16		
7	7	9	3	1	7	7		
15	14	1	1	1	15	13		
軍令陸甲第四二号に依り編成下令。 善通寺に於て編成完結。 爾後釜山、宇品に於て船舶輸送業務に従事す。 宇品出發第一六軍司令官の隸下に入る。 「スラバヤ」上陸。爾後同方面の船舶輸送業務に従事す。 「スラバヤ」出發。第一七軍に配属され主力は「ブーゲンビル」島「ブイン」 經由「ラバウル」に転進し支部を「ココボ」(「ラバウル」東方約三〇浬)及 び北部「ブーゲンビル」島「タリナ」に配置して「ソロモン」「ニューギニア」 船舶輸送作戦に従事す。 軍令陸甲第六七号に依り現地復帰し左記部隊に編入せらる。 独立混成第一四連隊に司令官柳屋大佐以下主力								

第四五 碇泊場司令部

略歴

(暁第六四三三部隊)

0634

独立混成第三九旅団に菅原大尉以下三〇名 第八方面軍海戦隊に横田少尉以下二〇名 第十七軍に岡崎大尉以下一〇名 （旧「タリナ」支部人員全部）	部隊長 中佐 高橋 金 一 大佐 柳 屋 良 輔

0635

昭										年 月 日	略 歴	摘 要
18	17	16	16	16	16	16	16	16	16			
6	2	12	11		11	9	9	7	7	7		
10		8	下		20				15	13		
軍令陸甲第四二号に依り編成下令。 善通寺に於て編成完結。 朝鮮馬山に至り関特演の船舶輸送に任ず。 朝鮮馬山出発。 海南島三亜着次期作戦に従事す。 大陸指第一〇二一号に基く船舶輸送司令官の命令に依り第二〇軍司令官の指揮下に入る。 三亜出発。大東亜戦参加の為征途につく。 馬來半島「シンガラ」に上陸し、爾後同方面の船舶輸送業務に従事す。 昭南に移駐し引続き船舶輸送業務に従事す。 軍令陸甲第三四号に依り現地復帰し第三船舶輸送司令部馬來支部に改編せらる。												

第四六倂泊場司令部

(暁第六四三四部隊)

略歴

0636

部隊長 中佐 宮下敏夫

0637

至 自			昭					年 月 日	略 歴	摘 要
20	20	18	18	18	18	18	18			
7	7	10	4	3	1	1	1			
5	4	13	17	28	19	18	4	22		
現地復帰、第一四師団海上輸送隊に編入。			西部第六六部隊（小倉）において編成完結。 宇品出発。 比島「マニラ」上陸。 「マニラ」に於て船舶輸送業務に従事。 「マニラ」出発。 西部「ユーギニヤ」「バボ」上陸。 爾後「バボ」に本部、「ソロン」「カイマナ」、「マノクワリ」に支部を配置し船舶輸送業務に従事。 「マノクワリ」に本部「サルミ」「モクメル」「ソロン」に支部「バボ」に出張所を設置し勢第一、第二、第三号作戦に参加。							

第四七 碇泊場司令部 略歴

（戦第九七三六部隊）

0638

		昭
		20
		9
		2
部隊長 初代 中佐 魚住 悟 二代 少佐 大島 勝之		「ニューギニア」に於て終戦。 停戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点で武装解除された後米軍収容所に入る。

0639